

1. 16点/16点デジタル入出力 ECEPFF0-0

1.1. ユニット情報

名称	16点/16点デジタル入出力	
型式	ECEPFF0-0	
メーカー	株式会社アルゴシステム	
接続方法	Ethernet	
コネクタ形状	RJ-45 ×2 (IN/OUT)	
電源	DC 24V	
注意事項	コマンドタイプ：LRWのみサポート 入出力をスレーブ付属のLEDで確認する場合は、ディップスイッチを操作する必要があります	

※ 上記画像は評価時のイメージとなります。
最新の製品とは異なる場合がございます。

1.2. 環境情報

EtherCAT® Master	KPA EtherCAT Master v1.4.6.7
EtherCAT® Studio	KPA Studio EtherCAT v1.9.22.0
INtime®	INtime® Runtime v3.13
NIC	Intel® PRO/100 S Desktop Adapter (PCI ボード)

1.3. PDI マップ情報

形式	名称	TYPE	Bit Size	PI Offset	備考
入力(IN)	D10 ~ D115	BOOL	それぞれ 1Bit	0x00 ~ 0x0F	1点につき 1Bit
出力(OUT)	D00 ~ D015	BOOL	それぞれ 1Bit	0x00 ~ 0x0F	1点につき 1Bit

1.4. 簡易使用手順

- ① KPA EtherCAT Studio から スレーブ(検出時の名称：ECEPFF0-0) 1台を検出する。
- ② コンフィグレーションファイル(.XML)を出力する。
- ③ RSI-ECAT サンプルプログラム PDIRW に 上記コンフィグレーションファイルをロードするように修正する。
- ④ スレーブ IN 側 1 点目入力を ON 後、コンソール画面から“i 0”と入力し、0 ビット目が ON かどうかを確認する。
- ⑤ スレーブ IN 側 8 点目入力を ON 後、コンソール画面から“i 0”と入力し、8 ビット目が ON かどうかを確認する。
- ⑥ スレーブ IN 側 9 点目入力を ON 後、コンソール画面から“i 1”と入力し、0 ビット目が ON かどうかを確認する。
- ⑦ スレーブ IN 側 16 点目入力を ON 後、コンソール画面から“i 1”と入力し、8 ビット目が ON かどうかを確認する。
- ⑧ コンソール画面から“o 0 1”と入力し、スレーブ OUT 側 1 点目が出力されているかどうかを確認する。
- ⑨ コンソール画面から“o 0 128”と入力し、スレーブ OUT 側 8 点目が出力されているかどうかを確認する。
- ⑩ コンソール画面から“o 1 1”と入力し、スレーブ OUT 側 9 点目が出力されているかどうかを確認する。
- ⑪ コンソール画面から“o 1 128”と入力し、スレーブ OUT 側 16 点目が出力されているかどうかを確認する。

※TenAsys®, INtime®, eVM® and iRMX® are registered trademarks of the TenAsys Corporation.

※EtherCAT® は、Beckhoff Automation GmbH, Germany の登録商標です。